

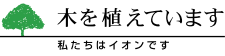
株主メモ

事業年度	2月21日から翌年の2月20日まで
基準日	2月20日 (そのほか必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定時株主総会	5月(ただし20日までに開催)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-288-324(フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

【お問い合わせ先】
イオンモール株式会社
経営企画部IRグループ
〒261-8539 千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
TEL 043-212-6733
E-mail amirdept@aeon-mall.net
ホームページ <http://www.aeon-mall.net>

【公告の方法】
電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故
その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.aeon-mall.net>

表紙写真はイオン千葉ニュータウンショッピングセンター(2006年4月開店)

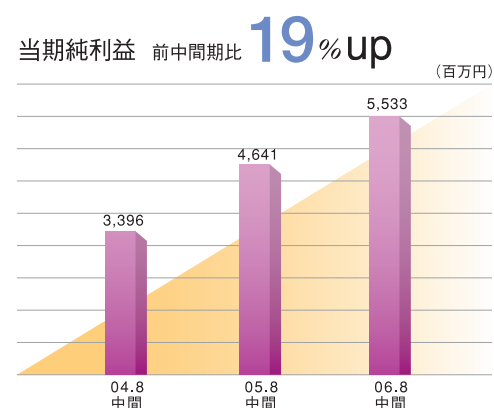
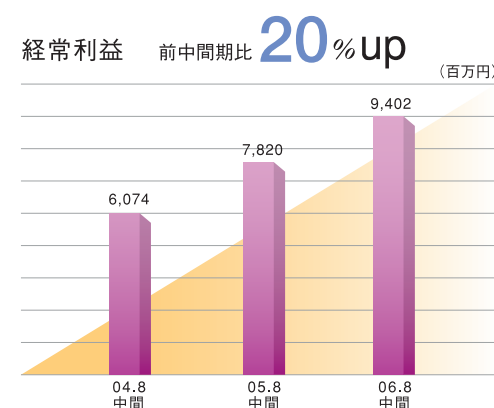
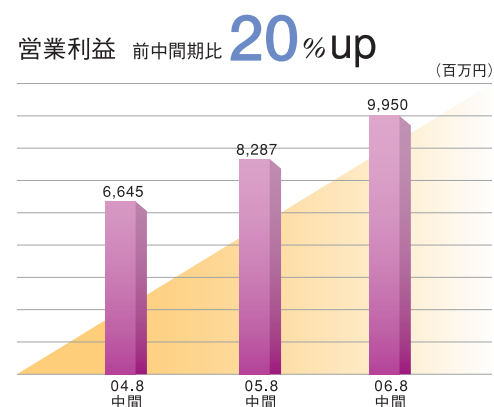
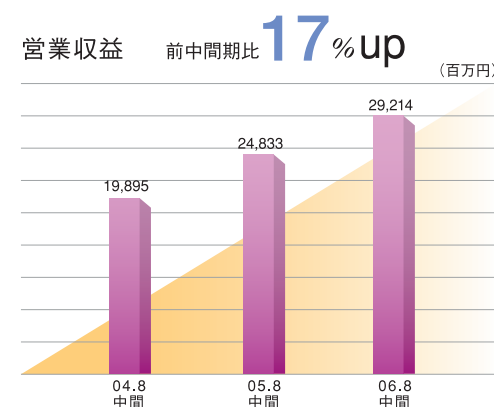


イオンモール株式会社

第96期
中間期報告書
2006.2.21～2006.8.20

競争が激化するなか収益・利益とも 順調に拡大しています。

ショッピングセンター（SC）事業、保険代理店事業とも好調に推移し、おかげさまで引き続き大幅な増収増益を達成しています。当中間期の連結業績は、営業収益292億円（前中間期比117.6%）、経常利益94億円（同120.2%）、中間純利益55億円（同119.2%）となりました。



地域に根ざしたショッピングセンターづくりで、 持続的な成長性と収益性を確保。

当社はSC専門ディベロッパーとして、お客さまのニーズに対応した地域で一番となるSCづくりを進め、積極的な新規SCの開店と既存SCの収益力向上に取り組んでおります。

当社の2006年度（2007年2月期）からの中期3ヵ年計画では、10SC以上の開店、既存SCの増床・リニューアルを推進し、営業収益920億円、経常利益320億円、当期純利益200億円と年平均で20%以上の成長、2倍の利益拡大を目指しております。初年度となる2006年度の間中期は、4月に千葉県に新規SCを開店したことに加え、前期開店した3SC、既存SCが好調に推移した結果、収益、利益とも、当初の計画を超過達成して、大幅な増収増益となりました。下期は、10月にイオン高崎SC（群馬県）、11月にイオン神戸北SC（兵庫県）を開店いたします。9月には、イオン成田SC（千葉県）がリニューアル・オープンし、好調に推移しております。

さて、SC業界は、外資・異業種の参入に加えて、大手小売業のモール型SC開発の加速化、百貨店のSC出店の動きに見られるように、本格的なSC時代を迎えております。

このような状況の中、2007年秋には大型店の郊外立地を

規制し、中心市街地の賑わい再生を目的として「まちづくり3法」（大店立地法、都市計画法、中心市街地活性化法）が変更されます。大店立地法では変更はありませんが、中心市街地活性化法の見直しにより、中心市街地の振興支援策が拡充される一方、1万㎡を超える大型店の出店できる地域が都市計画法で定められた商業地域等3つの用途地域に制限されます。

「国から地方へ、官から民へ」と地方行政の自立が求められ、地方行政の施策実行の自由度が高まる中、出店の判断は各地方自治体に委ねられることになります。都市間競争が激化する中、SCが地域に果たす役割は、一層重要性を増し、ディベロッパーにはお客さまにご支持をいただき、地域と共生するSCづくりのノウハウが一段と問われてまいります。

このような環境認識のもと、当社では、競争力の優位性を生むSCの開発、運営・管理等の専門性をさらに高め、収益基盤を拡大してまいります。国内におけるSC事業の拡大とともに、中国を中心とした海外の事業展開も視野に入れ、当社の長期ビジョンである「2013年2月期、50SC体制」の実現を目指してまいります。

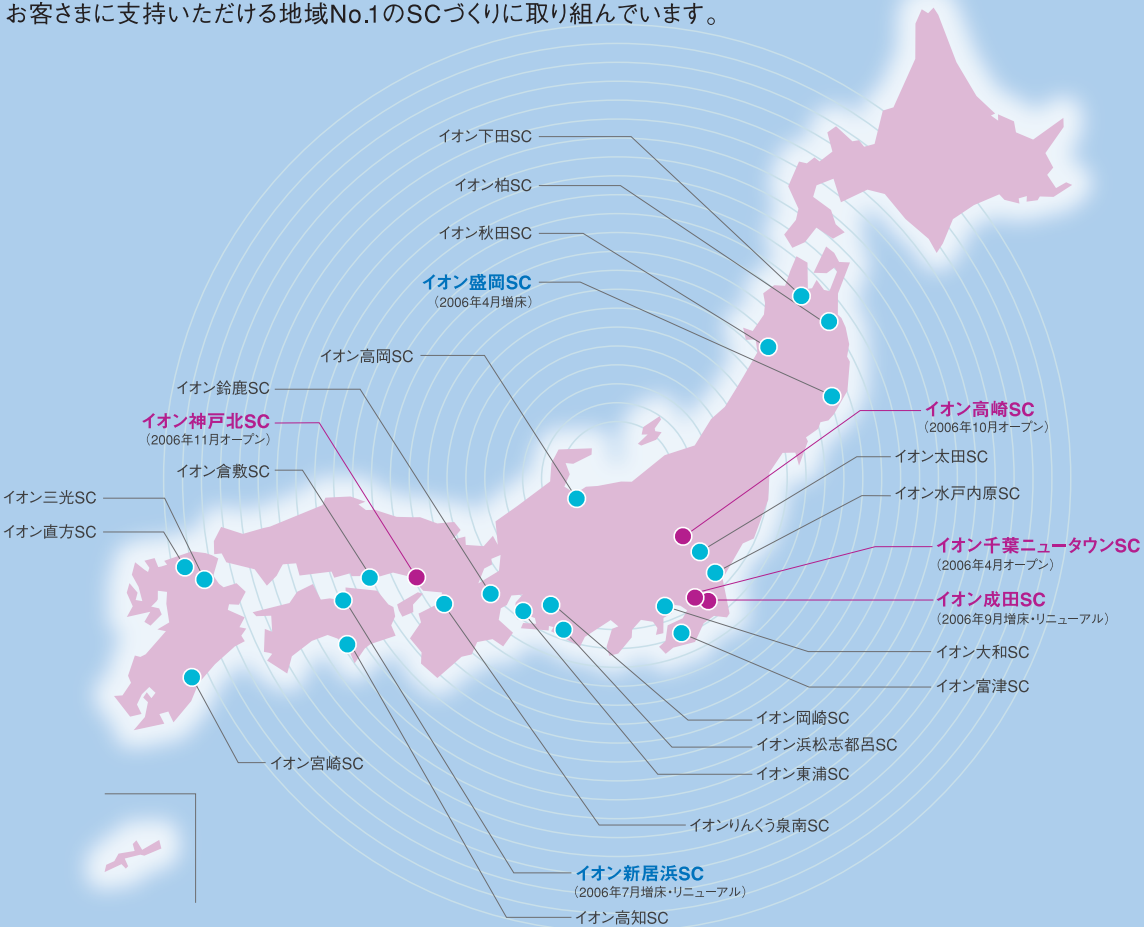
中期計画		
	2005年度	▶▶▶ 2008年度
営業収益	529億円	▶▶▶ 920億円
経常利益	174億円	▶▶▶ 320億円
当期純利益	103億円	▶▶▶ 200億円

代表取締役社長
川戸義晴



順調に推移するSCの開発・運営、
そして地域貢献への高い評価。
イオンモールは、着実な利益成長を遂げてまいります。

2006年は、3SCの新規オープンとともに、既存SCのリニューアル、
マーケットに適応した専門店の導入・入替等、活性化を計画的に促進。
地域密着への取り組みをさらに強化するなど、
お客さまに支持いただける地域No.1のSCづくりに取り組んでいます。



上期1店、下期2店の新規SCをオープン。

当社では小売業に精通したSC専門ディベロッパーのノウハウを最大限に活用し、お客さまニーズに応える“競争力”あるSCづくりを進めています。当上期、4月にイオン千葉ニュータウンSC（千葉県）をオープン。下期には10月にイオン高崎SC（群馬県）、11月にイオン神戸北SC（兵庫県）を開店いたします。



イオン千葉ニュータウンSC



イオン高崎SC



イオン神戸北SC

真の「街づくり」を目指し、地域密着を徹底。

SC開発を「街づくり」と位置づけるイオンモールでは、企業市民としての役割を重要視し、「地域と共生するSC」づくりの推進こそ、社会的責務であると考えています。SCを“お祭り”の会場として開放したり、地域の物産展やフリーマーケットを行う

スペースを提供するなど、地域の広場として、またコミュニティセンターとして広く活用いただいています。



よさこい祭り（イオン高知SC）

既存SCの計画的な増床・リニューアルも推進。

当社は、お客さまにとって常に新鮮で、何度来店されてもその度に発見のあるSCづくりを目指して、既存SCの活性化も計画的かつ積極的に推進。鮮度感のある新規店舗の導入や、既存専門店の改装等を進めています。上期は4月にイオン盛岡SC（岩手県）、7月にイオン新居浜SC（愛媛県）の増床・リニューアルを実施。下期は9月にイオン成田SC（千葉県）がリニューアル・オープンいたしました。

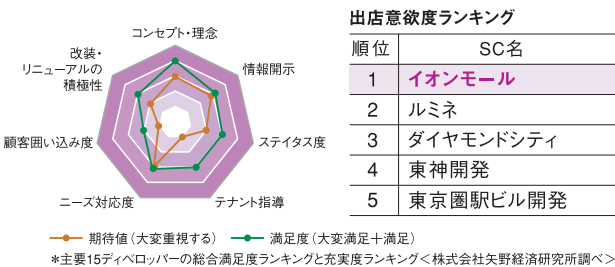
イオン新居浜SC



イオン成田SC

出店専門店へのサポート体制も高評価。

主要テナントによるSCディベロッパーの評価調査*により、イオンモールは、出店テナントに対する指導力が高く、非常に丁寧かつ親切であるという評価をいただきました。加えて、各テナントは、出店先としてステイタスが高く、また、SCのコンセプトや理念が明確であることなども、出店ディベロッパーを選択する理由に挙げています。



北総エリアで最大級のショッピングセンター、イオン千葉ニュータウンSC、オープン。

2006年4月21日、千葉県印西市に「イオン千葉ニュータウンショッピングセンター（SC）」がグランドオープンしました。当SCは、現在千葉県と都市再生機構が開発を進める「千葉ニュータウン」内の中心である「千葉ニュータウン中央駅」前に立地。2000年に開店した「ジャスコ千葉ニュータウン店」の隣地に商業施設を開発し、新たにモール型SCとして開店したものです。核店舗のジャスコと千葉初出店の40店舗を含む180の専門店、シネマ・スポーツ棟を上空通路で結んだ一体感あるスタイルが特徴で、駐車場の「空きスペース誘導システム」や、万一の際の救命対策としてADE（自動体外式除細動器）も導入。使いやすさと、安心・安全への配慮が行き届いた施設づくりが行われています。



所在地	千葉県印西市中央北3-2
規模	敷地面積：92,333㎡ 商業施設面積：75,236㎡
駐車台数	3,515台



全長170m、吹き抜けの高さ21m、1階の通路幅8mの開放感あふれるモール
モールには、180の専門店が並び、そのうち40店は、千葉県初出店の人気店。とっておきの時間、空間、商品、情報、サービスが集う、地域の新たなコミュニティスペースが誕生しました。

衣食住をワンストップで提供する核店舗ジャスコ

核店舗となる「ジャスコ千葉ニュータウン店」は、大幅なリニューアルを行い、直営売場の拡大により、衣料品ゾーンの充実と、団塊ジュニアやそのファミリーのニーズに対応したアパレルショップを導入しています。



新たなコミュニティの場を創造する充実のエンターテインメント

8スクリーン、1,868座席（車椅子スペース16を除く）を備えたシネマコンプレックス「ワーナー・マイカル」、アミューズメント「プラサカブコン」、総合フィットネスクラブなどを集積。物販に加え、サービス等のさまざまな機能をもつ多機能複合型のSCです。



既存2SCも増床、リプレイスにより活性化

4月にはイオン盛岡SCの増床、7月には、イオン新居浜SC（愛媛県）において、アミューズメント施設の移動や飲食店の入替による、フード・コートの活性化およびエンターテインメント機能の強化を実施しました。今後も、既存SCの改装等に計画的に取り組み、競争力のさらなる強化に取り組んでまいります。



※写真はイオン新居浜SC

既存SCの活性化を推進、いつまでも魅力的な「街づくり」を。 イオン成田SCがリニューアルオープン。

大規模な既存店改装として、当下期においては、開店から満6年を迎えた「イオン成田SC（千葉県）」の全館リニューアルを実施し、9月15日に開店いたしました。“成田における新たな『都市型繁華街』の創造”をコンセプトに、全館にわたって大幅な改装を敢行し、より魅力的で、楽しく賑わいあふれるショッピング環境を実現しました。



48のテナントが新規出店。 既存専門店も約7割が改装。

新たに48の専門店が出店し、専門店数は167店舗となりました。既存専門店も約7割にあたる72店舗が改装を実施。SC全体の鮮度がアップするとともに、バラエティに富んだ専門店が集う地域の“繁華街”として、お客さまにより新しく魅力的なライフスタイルのご提案ができるようになりました。



建物内の1・2階の駐車場を売場に変更し、SCの面積は65,276㎡から71,808㎡となりました。

所在地	千葉県成田市ウイング土屋24
規模	敷地面積：135,771㎡ 商業施設面積：71,808㎡（リニューアル前65,276㎡）
駐車台数	4,000台（リニューアル前3,500台）

HUMAXとの連絡陸橋

お客さまの利便性、安全性を考慮し、SCと隣接する「成田ヒューマックス」との間に陸橋を設置しました。陸橋の名前はお客さまからの公募と成田市のイメージから「あじさい橋」と命名されました。



イオンホールを拡大

個人はもちろん、各種団体・サークル等の文化的活動・発表の場として地域の活動を支援している多目的ホール「イオンホール」の場所を移設。広さも165㎡から265㎡へと拡大。より幅広い目的でご利用いただけるようになりました。



駐車場の拡大

北側に新たに立体駐車場を建設。駐車台数は500台増えて4,000台となりました。

下期には、新たに2つのSCがオープンします。

核店舗に「サティ」を迎えた北関東最大級のSCとなる「イオン高崎SC」、そして神戸市では初めての大型商業施設「イオン神戸北SC」。2つのSCから、地域のお客さまに暮らしの豊かさと楽しさをご提案いたします。

イオン高崎SC（2006年10月20日 オープン）



群馬県高崎市にオープン。核店舗となる「サティ」に170以上の専門店、さらにはシネマコンプレックス等を備えた県内最大級のSCです。隣接する前橋市を含め、商圏人口（車30分圏）は約60万人を設定しています。

所在地	群馬県高崎市棟高町1400番地
規模	敷地面積：122,049㎡ 商業施設面積：60,800㎡
駐車台数	3,300台

イオン神戸北SC（2006年11月18日 オープン予定）



兵庫県神戸市にオープン予定。大阪、神戸のベッドタウンとして発展してきたエリアの中心に位置する、神戸市初の大型商業施設です。3つの自動車専用道路に囲まれ、また最寄り駅である神戸電鉄神鉄道場駅からのアクセスも良好。広域からの集客が期待できます。

所在地	兵庫県神戸市北区上津台8丁目1番地
規模	敷地面積：114,622㎡ 商業施設面積：60,516㎡
駐車台数	4,000台

地域との絆をさらに深めていくために



日本赤十字社の献血活動に協力、 SCを挙げて、献血、骨髄ドナー登録を推進。

イオン宮崎SCでは、定期的に献血推進のキャンペーンを行っており、日本赤十字社主催の献血会場に当施設を提供しています。また、献血と同時に、骨髄バンクの登録会を同時に開催。ドナー登録者増加に貢献しています。



イオンモールが展開するショッピングセンターでは、地域の皆さまの暮らしに少しでもお役に立てるよう、さまざまなサービスや利便性の提供はもちろんのこと、「安全や安心の拠点」や「公共の場としての機能」という視点からも多彩な活動に取り組んでいます。

万一の災害時にも、“なくてはならないSC”であるために、 地域への協力支援を約束する防災協定を締結。

この協定は、地震などの災害時に避難場所となる駐車場の提供や、緊急避難用の大型tent「バルーンシェルター」の設置、ライフラインとなる水や食料品の供給などの協力体制を整える他、SCを防災訓練の場所としてもご利用いただくというもの。災害に強い街づくりに協力することで、今後ともより地域との連携を深めていきたいと考えています。

防災協定締結済みSC

イオン柏SC、イオン下田SC、イオン秋田SC、イオン盛岡SC、イオン太田SC、イオン水戸内原SC、イオン成田SC、イオン大和SC、イオン富津SC、イオン東浦SC、イオン鈴鹿SC、イオンりんくう泉南SC、イオン倉敷SC、イオン新居浜SC、イオン三光SC、イオン直方SC、イオン宮崎SC
その他のSCにつきましても防災協定の締結に向けて準備を進めています。

緊急時に備える、大型tent「バルーンシェルター」

NPO法人ピースウィンズ・ジャパンの豊富な人道支援の経験と帝人株式会社の技術を活かし共同開発された、災害時のための大型tentです。空気で膨らませることにより、約40分で80人分を収容する空間を確保できるため、重要だと言われる災害発生から72時間以内の初期救援活動に大きく貢献することが期待されています。



SC内の開催は地域の皆さまに好評。 運転免許更新に伴う講習会の会場を提供。

イオン大和SCでは、運転免許更新に伴う講習会開催に際して、イオンホールを提供しています。これは本年6月よりスタートし、月に4回、午前・午後の2回に分けて行われており、毎回100名前後のお客さまが参加しています。



地域一番の競争力のあるSCづくりを推進し、増収・増益を達成しました。

中間決算サマリー

- 引き続き大幅な増収増益を達成：連結での営業収益は17.6%増の292億円。中間純利益は19.2%増の55億円
- 既存18SCにおける専門店売上は6.3%増
- 前期にオープンした3SCも好調に推移。当中間期にオープンした1SCの寄与もあり業績向上

全体概況

景気は緩やかな回復基調で推移しており、個人消費も所得や雇用の改善により増加基調にあります。それと同時にお客さまの選別消費が進む中、小売業界は業態を超えた競争が一段と激化しています。このような状況に対して、当社では小売業に精通したSC専業ディベロッパーならではのノウハウを最大限に発揮し、お客さまのニーズに迅速かつ的確に対応した、地域で一番の競争力を持つSCづくりを推し進めています。

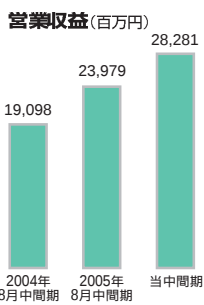
当中間期は、新たに1SCをオープンしました。既存SCでは、2SCの増床・リニューアルを実施し、お客さまの声を反映させながらの専門店の入れ替えを積極的に行うなど、サービス力の向上、SCの鮮度維持による競争力強化を図りました。また、もう一方の事業である保険代理店事業では、個人分野、法人分野とも、積極的かつきめ細やかな営業活動に取り組んだことにより、順調に契約数が拡大しました。

これらの結果、当中間期の連結業績は、営業収益292億円(前中間期比17.6%増)、経常利益94億円(同20.2%増)、中間純利益55億円(同19.2%増)となりました。

SC事業

当中間期は2006年4月にイオン千葉ニュータウンSC(千葉県)をオープンし、既存SCにおいては、4月にイオン盛岡SC(岩手県)の増床、7月にイオン新居浜SC(愛媛県)においてアミューズメント施設の移動や飲食店の入れ替えによるフード・コートの活性化等、エンターテインメント機能の充実を図りました。その他のSCにおいても、鮮度感のある新規専門店の導入や既存専門店の改装等を行い、競争力強化に取り組みしました。

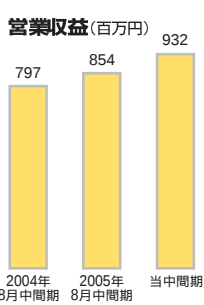
これらの結果、既存18SCの専門店売上は前期比6.3%増となり、売上高に連動する歩合家賃の比重が大きい専門店からの家賃収入が増加しました。2005年に開店したイオン直方SC(福岡県)、イオン宮崎SC(宮崎県)、イオン水戸内原SC(茨城県)も順調に推移しています。この結果、SC事業は、22SC体制、商業施設面積は130万㎡となり、営業収益は282億円(前中間期比17.9%増)と増収になりました。



保険代理店事業

お客さまの多様化するニーズにいち早くお応えするべく、積極的な営業活動とサービス向上に取り組ましました。特に、個人分野の強化に取り組み、がん・医療保険の拡販が順調に推移しました。SCにおける保険販売専用カウンターも着実に拡大し、当中間期は新たに7カ所増設して29カ所となりました。

また、法人分野においても、イオングループ各社の事業拡大に対応した提案型営業により、契約数を伸ばしました。この結果、保険代理店事業の営業収益は、9億円(前中期比9.2%増)となりました。



通期の見通し

営業収益608億円(前期比14.9%増)
経常利益195億円(前期比11.9%増)
当期純利益115億円(前期比10.9%増)

下期の取り組み

- 2006年9月にイオン成田SCがリニューアルオープンしました。(7ページ参照)
- 2006年10月にイオン高崎SC、11月にイオン神戸北SCをオープンします。(8ページ参照)

連結財務諸表(要旨)

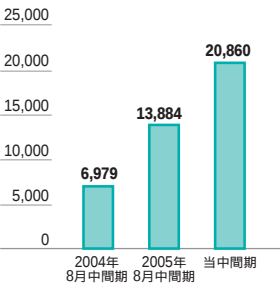
会計基準の改正について

2006年5月施行の会社法により、以下の
ような対応をとっています。

貸借対照表
「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が
新設されました。これは貸借対照表上、
資産性を持つものを「資産の部」、負債性
を持つものを「負債の部」に記載し、それ
らに該当しないものを資産と負債の差額
として「純資産の部」に記載するものです。
なお、比較の便に資するため、前中間期
の表示方法を当中間期の基準に組み替
えて表示しております。

株主資本等変動計算書
「連結剰余金計算書」が廃止され、「連結
株主資本等変動計算書」が新設されまし
た。これは、貸借対照表の純資産の部
の中で、主として株主の皆さまに帰属する
株主資本について、その会計期間におけ
る変動事由と変動額を連結ベースでご報
告するために作成する計算書類です。
また、単体においても、同様に「利益処分
計算書」が廃止され、「株主資本等変動計
算書」が新設されました。これに伴い、期
中における剰余金の変動は、新設された
「株主資本等変動計算書」で説明される
ため、損益計算書末尾の「未処分利益」の
計算区分が廃止されました。

営業キャッシュ・フロー (百万円)



連結損益計算書 (単位:百万円)

	前中間期 自2005年2月21日 至2005年8月20日	当中間期 自2006年2月21日 至2006年8月20日	前期 自2005年2月21日 至2006年2月20日
営業収益	24,833	29,214	52,903
不動産賃貸収益	23,979	28,281	51,082
保険代理店手数料	854	932	1,821
営業原価	13,878	16,626	29,297
営業総利益	10,955	12,587	23,605
販売費及び一般管理費	2,667	2,637	5,095
営業利益	8,287	9,950	18,510
営業外収益	190	245	410
営業外費用	658	792	1,502
経常利益	7,820	9,402	17,419
特別利益	46	123	167
特別損失	102	143	142
税金等調整前中間(当期)純利益	7,764	9,382	17,443
法人税、住民税及び事業税	2,864	3,873	7,073
法人税等調整額	226	△60	△57
少数株主利益	31	36	58
中間(当期)純利益	4,641	5,533	10,369

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	前中間期 自2005年2月21日 至2005年8月20日	当中間期 自2006年2月21日 至2006年8月20日	前期 自2005年2月21日 至2006年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,884	20,860	15,687
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,925	△22,595	△12,281
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,539	3,413	1,647
現金及び現金同等物の増減額	5,498	1,678	5,052
現金及び現金同等物の期首残高	4,472	9,525	4,472
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	9,970	11,203	9,525

連結貸借対照表 (単位:百万円)

	前中間期末 2005年8月20日現在	当中間期末 2006年8月20日現在	前期末 2006年2月20日現在
資産の部			
流動資産	16,999	18,454	16,672
固定資産	190,269	205,529	185,460
有形固定資産	170,316	184,194	164,303
無形固定資産	900	896	894
投資その他の資産	19,052	20,437	20,262
資産合計	207,269	223,983	202,132

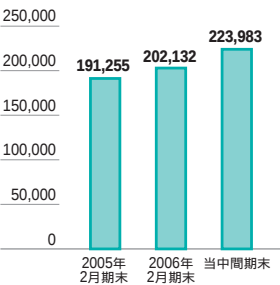
負債の部			
流動負債	50,905	57,508	44,715
固定負債	112,999	113,153	108,045
負債合計	163,904	170,662	152,761

純資産の部			
株主資本	42,373	52,084	48,100
資本金	7,796	7,796	7,796
資本剰余金	7,165	7,165	7,165
利益剰余金	27,425	37,137	33,153
自己株式	△13	△14	△14
評価・換算差額等	750	938	1,002
少数株主持分	241	298	268
純資産合計	43,365	53,321	49,371
負債純資産合計	207,269	223,983	202,132

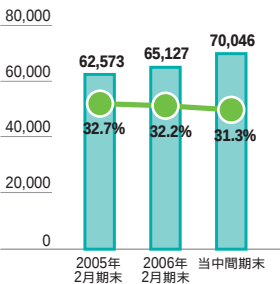
連結株主資本等変動計算書 (単位:百万円)

自 2006年2月21日 至 2006年8月20日	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2006年2月20日 残高	7,796	7,165	33,153	△14	48,100	1,002	1,002	—	49,103
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△1,500		△1,500				△1,500
利益処分による役員賞与			△48		△48				△48
中間純利益			5,533		5,533				5,533
自己株式の取得				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)						△64	△64	298	234
中間連結会計期間中の変動額合計			3,984	△0	3,984	△64	△64	298	4,218
2006年8月20日 残高	7,796	7,165	37,137	△14	52,084	938	938	298	53,321

総資産 (百万円)



有利子負債 (百万円)／
対総資産比率



単体財務諸表(要旨)

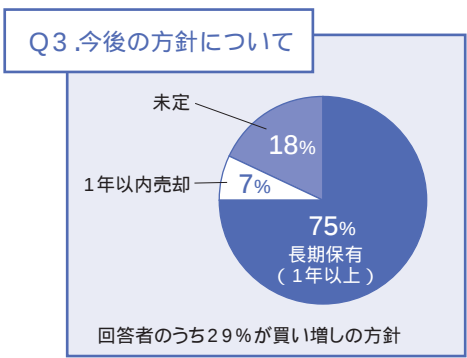
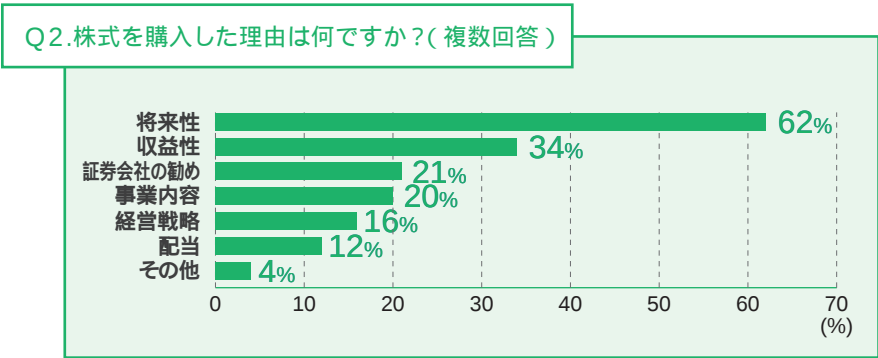
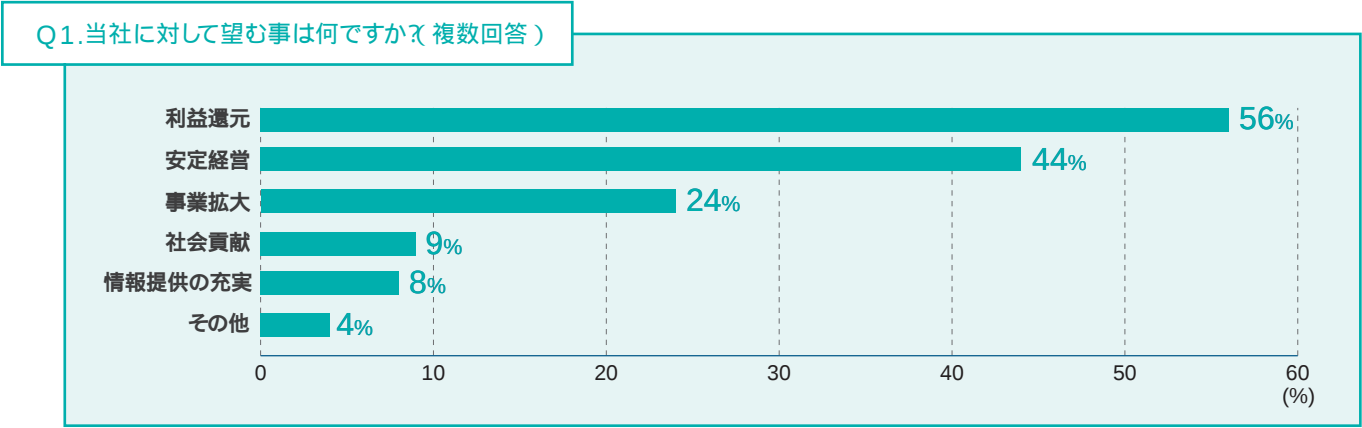
損益計算書（単位：百万円）			
	前中間期 自2005年2月21日 至2005年8月20日	当中間期 自2006年2月21日 至2006年8月20日	前期 自2005年2月21日 至2006年2月20日
営業収益	24,981	29,363	53,200
営業原価	14,258	17,015	30,029
営業総利益	10,723	12,348	23,170
販売費及び一般管理費	2,658	2,627	5,077
営業利益	8,065	9,720	18,092
営業外収益	206	251	427
営業外費用	632	768	1,450
経常利益	7,638	9,203	17,069
特別利益	49	123	170
特別損失	80	143	121
税引前中間(当期)純利益	7,607	9,183	17,118
法人税、住民税及び事業税	2,807	3,788	6,951
法人税等調整額	216	△57	△69
中間(当期)純利益	4,583	5,452	10,235
前期繰越利益	2,681	—	2,681
中間(当期)未処分利益	7,264	—	12,916

貸借対照表（単位：百万円）			
	前中間期末 2005年8月20日現在	当中間期末 2006年8月20日現在	前期末 2006年2月20日現在
資産の部			
流動資産	16,693	18,073	16,151
固定資産	188,160	203,530	183,504
有形固定資産	165,642	179,777	159,760
無形固定資産	888	887	884
投資その他の資産	21,629	22,865	22,859
資産合計	204,853	221,603	199,655
負債の部			
流動負債	50,614	57,205	44,352
固定負債	111,463	111,880	106,623
負債合計	162,078	169,086	150,976
純資産の部			
株主資本	42,024	51,579	47,676
資本金	7,796	7,796	7,796
資本剰余金	7,165	7,165	7,165
利益剰余金	27,076	36,632	32,729
自己株式	△13	△14	△14
評価・換算差額等	750	938	1,002
純資産合計	42,775	52,517	48,678
負債純資産合計	204,853	221,603	199,655

株主資本等変動計算書（単位：百万円）							
自 2006年2月21日 至 2006年8月20日	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
					固定資産 圧縮積立金	特別償却準備金	別途積立金
2006年2月20日 残高	7,796	7,165	7,165	530	296	685	18,300
中間会計期間中の変動額							
固定資産圧縮積立金の取崩					△24		
特別償却準備金の積立						300	
特別償却準備金の取崩						△261	
別途積立金の積立							8,000
剰余金の配当							
利益処分による役員賞与金							
中間純利益							
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の							
中間会計期間中の変動額(純額)							
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	△24	38	8,000
2006年8月20日 残高	7,796	7,165	7,165	530	271	724	26,300
	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
2006年2月20日 残高	12,916	32,729	△14	47,676	1,002	1,002	48,678
中間会計期間中の変動額							
固定資産圧縮積立金の取崩	24						
特別償却準備金の積立	△300						
特別償却準備金の取崩	261						
別途積立金の積立	△8,000						
剰余金の配当	△1,500	△1,500		△1,500			△1,500
利益処分による役員賞与金	△48	△48		△48			△48
中間純利益	5,452	5,452		5,452			5,452
自己株式の取得			△0	△0			△0
株主資本以外の項目の							
中間会計期間中の変動額(純額)					△64	△64	△64
中間会計期間中の変動額合計	△4,110	3,903	△0	3,903	△64	△64	3,838
2006年8月20日 残高	8,806	36,632	△14	51,579	938	938	52,517

株主さまアンケート結果のご報告

第95期事業報告書にて実施いたしました株主さまアンケートの結果をご報告いたします(抜粋)。
弊社の趣旨にご理解をいただき、多くの株主さまよりご回答をいただき、誠にありがとうございました。



今回お寄せいただきました多数のご意見・ご要望を今後の経営の参考にさせていただき、従業員一同、さらなる会社の発展と地域社会への貢献に努めてまいります。また、今後も株主さまのご意見・ご要望をお伺いする機会を設けアンケートを実施いたしますので、ご協力の程お願い申し上げます。

会社・株式データ

■ 会社概要 (2006年8月20日現在)

社 名	イオンモール株式会社
英 文 社 名	AEON Mall Co., Ltd.
設 立	1911 (明治44) 年11月
資 本 金	77億96百万円
本社所在地	千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
従 業 員 数	559名

■ 取締役及び監査役 (2006年8月20日現在)

代表取締役社長	川戸義晴
専務取締役	村上教行 SC営業担当
専務取締役	木村洋一 経経本部長
常務取締役	岡 夫 管理本部長
常務取締役	田中 稔 SC開発本部長
常務取締役	西尾徹二 SC営業本部長
取締役相談役	岡田元也 イオン(株)取締役兼代表執行役社長
取締役	三浦政次 経営企画部長
取締役	平林秀博 開発部長
取締役	敷中 博 営業企画部長
取締役	小西幸夫 テナント開発部長
取締役	瀧澤 一郎 保険事業本部長
取締役	大西秀明 建設部長
取締役	寺澤洋一 宮崎SCゼネラルマネージャー
常勤監査役	横井 賢
監査役	前田邦彦
監査役	石垣富士夫
監査役	若林秀樹 イオン(株)経経本部財務部長

■ 株式の状況 (2006年8月20日現在)

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	60,011,232株
株主数	2,866名

大株主(上位10名)	当社への出資状況	
	所有株式数 (千株) ¹	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) ²
イオン株式会社	32,152	53.58
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・ インターナショナル・リミテッド	2,061	3.44
ザチェース マンハッタンバンク エヌエイロンドン	1,882	3.14
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,722	2.87
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	1,267 ³	2.11
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカ운ツ イーアイエスジー	1,242	2.07
農林中央金庫	962	1.60
東京海上日動火災保険株式会社	839	1.40
インベスターズバンク	810	1.35
第一生命保険相互会社	759	1.27

※ 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。
2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を四捨五入しております。
3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) の所有株式数は、全て信託業務にかかわるものであります。